

世界一

片貝まつり

片貝まつり

三尺玉発祥の地



片貝まつり

9月9日・10日開催

片貝の人達は、日本中のお客様を心温かく迎える。
狭い町だけれど片寄せ合って楽しむところです。
片貝まつりの主な行事を紹介します。



●400余年の伝統を支え続けてきた

「浅原神社」

この浅原神社は、地域の鎮守様として通称“いちよさま”と呼ばれ、親しまれています。片貝まつりはこのいちよさまの秋季例大祭であり、住民すべての祈りと願いがここに集結する神社なのです。



●花火の玉を神社に奉納する

「玉送り」

成人を迎えた人や厄年の人蔵参加し、にぎやかに町内を練り歩きながら浅原神社へ花火の玉を奉納する「玉送り」は、9日・10日の両日行われます。

何と言ても色とりどりに飾られた屋台と人々の熱気が祭りを盛り上げ、全員参加ならではの迫力で町を包みます。

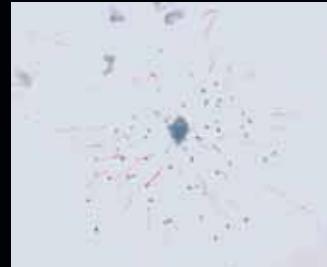


●花火打ち揚げの成功と無事を祈る

「筒引き」

約100人の若者が参加するこの「筒引き」は、古式にのつとり一本の太綱に引かれた花火の筒が、町内の目抜き通りを練り歩きます。

前方の木製の大きな筒は、昔これで花火を打ち揚げていた歴代物の筒。普段は神社の一角に祭られていますが、この日ばかりは住民とともに大活躍します。



「祭り屋台」

●世界で唯一の

「真昼の三尺玉」

花火といえば夜が当たり前と思ってしまいかねません。片貝では10日に三尺玉が真昼に打ち揚げられます。三尺玉が空中で爆発された際、煙に色がついており、真昼でもきれいな花火が見られるというわけ。真昼の三尺玉が見られるのは世界でただひとつ、ここ片貝だけ。



「花火太鼓」

●花火職人の魂を打ち揚げる

「花火筒」

重さ420kgの四尺玉を地上約800mの高さまで打ち揚げる、高さ5.0m、厚さ2.4cmの鋼鉄製の筒。クレーンで慎重に筒の中に入れしていく。あとは今宵を待つのみ。

昇天銀竜黄金すだれ小割浮模様

花火は余韻を楽しむという

●一瞬にして人々の心をとらえる

「世界」の四尺玉

世界一大きいと言われる
四尺玉を打ち揚げる片

貝まつりの花火大会(小
千谷市片貝町)は、9月
9日・10日の2日間にわ
たって開催されます。

片貝の花火は地元の浅
原神社秋季例大祭が始
まりで、江戸時代からの
歴史があり、明治24年には
三尺玉を4発も打ち
揚げたことから「三尺玉
発祥の地」と言われてい
ます。

片貝の鎮守の社の夜空に轟く
祈りの花火に酔いしれる

世界一の大花火

ひとびとの

思いや願いを込めて…

世界一の大花火



大花火

世界一の力石リガ
片貝の夜空を
焦がします。

古くから、子供の誕生や還暦・厄払いなどにちなんで、町の人々が神社に花火を奉納する習慣があり、その花火が夜空を彩っているのです。また、奉納された花火とともに奉納者名や願いを込めたコメントが“番附表”に記載されるため、その年の町の人々の冠婚葬祭など暮らしの一端がわかれます。

花火の一瞬の輝きの中には多くの人々の願いや結びつきが込められています。

人生の折り目・節目に、ふるさと片貝に集い、花火を揚げる

結婚・誕生・室内安全・健康祈願・祝成人・三十三才・四十二才厄払い・五十才・還暦・古稀・追善供養など

スマートフォンやタブレットで動画をご覧いただけます。

「COCOAR」アプリを無料インストールし、全体をかざしてください。
(読み込みが悪い場合は、表紙全体をかざしてください。)

昇天銀龍黄金千輪二段咲き



片貝まつり花火を

100倍楽しく

奉納大煙火

片貝まつり浅原神社秋季例大祭

小千谷市片貝町は花火と職人の町。毎年9月9・10日に開催される浅原神社秋季例大祭は、400年もの伝統を誇る祭りです。この祭りの呼び物と言えば世界一の四尺玉花火で、人口5千人に満たない小さな町がこの日ばかりは、一気に20万人の人々でぎわいます。

■越後片貝浅原神社と奉納煙火のあゆみ

慶長5年 煙火を獻る

安政5年 浅原神社社殿改築。大花火奉納。

明治24年 三尺玉4発打ち揚げる。9日夜3発、10日昼1発。

(三尺玉発祥の地となる)

本年より成人による大仕掛け花火の奉納始まる。

(成人 和風級友会)

昭和28年 成人大仕掛けスターインの他に同級会の奉納

煙火始まる。(永和同級会)

昭和37年 奉納煙火取締本部を越後片貝青年煙火協会改め

片貝町煙火協会を設立する。

三尺玉78年振り打ち揚げる。(成人 となかい)

越後三大花火

「花火王国」と言われている新潟県では夏になると毎日のようにどこかで花火が揚がる程、花火大会が盛んに行われています。その中でも、越後三大花火大会と言われる花火大会があります。それが海の柏崎、川の長岡そして山の片貝です。

片貝まつりの花火は 反響音がすごい

花火打ち揚げ場所の後ろが小高い山、その山が屏風状となつてることから、音が反射して豪快な反響音を楽しむ事ができます。

片貝まつりの花火は 尺玉花火が中心

花火番附の7~8割が尺玉花火となります。

尺玉2段打、5段打、10段打などの連發花火が多く打ち揚げられます。

二尺玉、三尺玉は数発、世界一四尺玉は両日の午後10時に打ち揚げられます。

●9日昇天銀竜黄金すだれ小割浮模様
●10日昇天銀竜黄金千輪一段咲き



屋台番附



片貝まつり 四尺玉



長岡まつり フェニックス

さおん柏崎まつり 海中空(かいちゅうくう) スターマイン

これだけは知っておきたい

花火の種類

「割物」、「ポカ物」、「型物」、「仕掛け花火」の4種類です



芯入り菊／ヤシ／トラの尾など

■割物

「割物」は代表的な打ち揚げ花火で、破裂したときに星が球状に飛散するものである。中でも星が菊の花のように尾を引いて広がるものを「菊物」、尾を引かないものを牡丹に喻えて「ボタン物」とよぶ。また、二重の球状に広がるものをお芯物」という。

割物・芯入り菊／割物・芯入り銀冠菊／
割物・牡丹／半割物・錦冠菊など

■ポカ物

「ポカ物」は星が飛散しないものの玉がポカッと2つに割れて星や細工を放出。「柳」のほか、多数のパイプ星が回転しながら飛び出し、ブーと高音でうなりながらランダムに飛び回る「蜂」など有名。

柳／蜂／ヤシ／トラの尾など

■型物

花火で図形や文字などを描き出す。ちょうちよやハートマーク、スマイルマークなどが有名。最近ではアニメのキャラクターも。

土星／ちょうちよ／ハート／スター／スマイルなど

■仕掛け花火

ナイアガラやスターマインなど、複数の花火を利用するなど作為的に仕掛けを施した花火。

ナイアガラ／スターマイン／枠仕掛け／海中花火など



昭和62年
平成11年
平成12年
平成16年
平成26年
平成17年

(奉納者 9日片貝煙火工業 10日十三鶴会)
四尺玉2発打ち揚げる。(奉納者 9日片貝町四尺玉打揚協賛会、10日三国コカコートリング株)
四尺玉打ち揚げ奉納者 9日片貝町民総参加、10日三国コカコートリング株)

四尺玉打ち揚げ奉納者 9日片貝町民総参加、10日小千谷ライオンズクラブ有志

伝統片貝祭り屋台45年振り復元完成。

9月4日に町内を引き回して披露する。

四尺玉打ち揚げ奉納者 9日花火王国かたかい

ヨーロボーレーションチーム、10日祝成人片貝町民一同。

団体ツアーパートicipateによる大スター・マイインの

打ち揚げが始まる。

子供の誕生日、結婚祝、家内安全、健康祈

願、社業発展、物故者追善供養等、想いを込

めて花火を奉納します。(例えばこんなコ

メント)祝○○誕生、みんなに愛されるカワ

イイ女の子になあれ)

想いを込めた花火一発毎に、コメントが放

送されながら花火が打ち揚げられます。放

送設備は、浅原神社周辺、町の中心部等に

設置されます。

問い合わせ先..片貝町煙火協会

昭和55年
昭和57年
昭和60年
昭和61年
昭和62年
昭和63年
昭和64年
昭和65年
昭和66年
昭和67年
昭和68年
昭和69年
昭和70年
昭和71年
昭和72年
昭和73年
昭和74年
昭和75年
昭和76年
昭和77年
昭和78年
昭和79年
昭和80年
昭和81年
昭和82年
昭和83年
昭和84年
昭和85年
昭和86年
昭和87年
昭和88年
昭和89年
昭和90年
昭和91年
昭和92年
昭和93年
昭和94年
昭和95年
昭和96年
昭和97年
昭和98年
昭和99年
昭和100年
昭和101年
昭和102年
昭和103年
昭和104年
昭和105年
昭和106年
昭和107年
昭和108年
昭和109年
昭和110年
昭和111年
昭和112年
昭和113年
昭和114年
昭和115年
昭和116年
昭和117年
昭和118年
昭和119年
昭和120年
昭和121年
昭和122年
昭和123年
昭和124年
昭和125年
昭和126年
昭和127年
昭和128年
昭和129年
昭和130年
昭和131年
昭和132年
昭和133年
昭和134年
昭和135年
昭和136年
昭和137年
昭和138年
昭和139年
昭和140年
昭和141年
昭和142年
昭和143年
昭和144年
昭和145年
昭和146年
昭和147年
昭和148年
昭和149年
昭和150年
昭和151年
昭和152年
昭和153年
昭和154年
昭和155年
昭和156年
昭和157年
昭和158年
昭和159年
昭和160年
昭和161年
昭和162年
昭和163年
昭和164年
昭和165年
昭和166年
昭和167年
昭和168年
昭和169年
昭和170年
昭和171年
昭和172年
昭和173年
昭和174年
昭和175年
昭和176年
昭和177年
昭和178年
昭和179年
昭和180年
昭和181年
昭和182年
昭和183年
昭和184年
昭和185年
昭和186年
昭和187年
昭和188年
昭和189年
昭和190年
昭和191年
昭和192年
昭和193年
昭和194年
昭和195年
昭和196年
昭和197年
昭和198年
昭和199年
昭和200年
昭和201年
昭和202年
昭和203年
昭和204年
昭和205年
昭和206年
昭和207年
昭和208年
昭和209年
昭和210年
昭和211年
昭和212年
昭和213年
昭和214年
昭和215年
昭和216年
昭和217年
昭和218年
昭和219年
昭和220年
昭和221年
昭和222年
昭和223年
昭和224年
昭和225年
昭和226年
昭和227年
昭和228年
昭和229年
昭和230年
昭和231年
昭和232年
昭和233年
昭和234年
昭和235年
昭和236年
昭和237年
昭和238年
昭和239年
昭和240年
昭和241年
昭和242年
昭和243年
昭和244年
昭和245年
昭和246年
昭和247年
昭和248年
昭和249年
昭和250年
昭和251年
昭和252年
昭和253年
昭和254年
昭和255年
昭和256年
昭和257年
昭和258年
昭和259年
昭和260年
昭和261年
昭和262年
昭和263年
昭和264年
昭和265年
昭和266年
昭和267年
昭和268年
昭和269年
昭和270年
昭和271年
昭和272年
昭和273年
昭和274年
昭和275年
昭和276年
昭和277年
昭和278年
昭和279年
昭和280年
昭和281年
昭和282年
昭和283年
昭和284年
昭和285年
昭和286年
昭和287年
昭和288年
昭和289年
昭和290年
昭和291年
昭和292年
昭和293年
昭和294年
昭和295年
昭和296年
昭和297年
昭和298年
昭和299年
昭和300年
昭和301年
昭和302年
昭和303年
昭和304年
昭和305年
昭和306年
昭和307年
昭和308年
昭和309年
昭和310年
昭和311年
昭和312年
昭和313年
昭和314年
昭和315年
昭和316年
昭和317年
昭和318年
昭和319年
昭和320年
昭和321年
昭和322年
昭和323年
昭和324年
昭和325年
昭和326年
昭和327年
昭和328年
昭和329年
昭和330年
昭和331年
昭和332年
昭和333年
昭和334年
昭和335年
昭和336年
昭和337年
昭和338年
昭和339年
昭和340年
昭和341年
昭和342年
昭和343年
昭和344年
昭和345年
昭和346年
昭和347年
昭和348年
昭和349年
昭和350年
昭和351年
昭和352年
昭和353年
昭和354年
昭和355年
昭和356年
昭和357年
昭和358年
昭和359年
昭和360年
昭和361年
昭和362年
昭和363年
昭和364年
昭和365年
昭和366年
昭和367年
昭和368年
昭和369年
昭和370年
昭和371年
昭和372年
昭和373年
昭和374年
昭和375年
昭和376年
昭和377年
昭和378年
昭和379年
昭和380年
昭和381年
昭和382年
昭和383年
昭和384年
昭和385年
昭和386年
昭和387年
昭和388年
昭和389年
昭和390年
昭和391年
昭和392年
昭和393年
昭和394年
昭和395年
昭和396年
昭和397年
昭和398年
昭和399年
昭和400年
昭和401年
昭和402年
昭和403年
昭和404年
昭和405年
昭和406年
昭和407年
昭和408年
昭和409年
昭和410年
昭和411年
昭和412年
昭和413年
昭和414年
昭和415年
昭和416年
昭和417年
昭和418年
昭和419年
昭和420年
昭和421年
昭和422年
昭和423年
昭和424年
昭和425年
昭和426年
昭和427年
昭和428年
昭和429年
昭和430年
昭和431年
昭和432年
昭和433年
昭和434年
昭和435年
昭和436年
昭和437年
昭和438年
昭和439年
昭和440年
昭和441年
昭和442年
昭和443年
昭和444年
昭和445年
昭和446年
昭和447年
昭和448年
昭和449年
昭和450年
昭和451年
昭和452年
昭和453年
昭和454年
昭和455年
昭和456年
昭和457年
昭和458年
昭和459年
昭和460年
昭和461年
昭和462年
昭和463年
昭和464年
昭和465年
昭和466年
昭和467年
昭和468年
昭和469年
昭和470年
昭和471年
昭和472年
昭和473年
昭和474年
昭和475年
昭和476年
昭和477年
昭和478年
昭和479年
昭和480年
昭和481年
昭和482年
昭和483年
昭和484年
昭和485年
昭和486年
昭和487年
昭和488年
昭和489年
昭和490年
昭和491年
昭和492年
昭和493年
昭和494年
昭和495年
昭和496年
昭和497年
昭和498年
昭和499年
昭和500年
昭和501年
昭和502年
昭和503年
昭和504年
昭和505年
昭和506年
昭和507年
昭和508年
昭和509年
昭和510年
昭和511年
昭和512年
昭和513年
昭和514年
昭和515年
昭和516年
昭和517年
昭和518年
昭和519年
昭和520年
昭和521年
昭和522年
昭和523年
昭和524年
昭和525年
昭和526年
昭和527年
昭和528年
昭和529年
昭和530年
昭和531年
昭和532年
昭和533年
昭和534年
昭和535年
昭和536年
昭和537年
昭和538年
昭和539年
昭和540年
昭和541年
昭和542年
昭和543年
昭和544年
昭和545年
昭和546年
昭和547年
昭和548年
昭和549年
昭和550年
昭和551年
昭和552年
昭和553年
昭和554年
昭和555年
昭和556年
昭和557年
昭和558年
昭和559年
昭和560年
昭和561年
昭和562年
昭和563年
昭和564年
昭和565年
昭和566年
昭和567年
昭和568年
昭和569年
昭和570年
昭和571年
昭和572年
昭和573年
昭和574年
昭和575年
昭和576年
昭和577年
昭和578年
昭和579年
昭和580年
昭和581年
昭和582年
昭和583年
昭和584年
昭和585年
昭和586年
昭和587年
昭和588年
昭和589年
昭和590年
昭和591年
昭和592年
昭和593年
昭和594年
昭和595年
昭和596年
昭和597年
昭和598年
昭和599年
昭和600年
昭和601年
昭和602年
昭和603年
昭和604年
昭和605年
昭和606年
昭和607年
昭和608年
昭和609年
昭和610年
昭和611年
昭和612年
昭和613年
昭和614年
昭和615年
昭和616年
昭和617年
昭和618年
昭和619年
昭和620年
昭和621年
昭和622年
昭和623年
昭和624年
昭和625年
昭和626年
昭和627年
昭和628年
昭和629年
昭和630年
昭和631年
昭和632年
昭和633年
昭和634年
昭和635年
昭和636年
昭和637年
昭和638年
昭和639年
昭和640年
昭和641年
昭和642年
昭和643年
昭和644年
昭和645年
昭和646年
昭和647年
昭和648年
昭和649年
昭和650年
昭和651年
昭和652年
昭和653年
昭和654年
昭和655年
昭和656年
昭和657年
昭和658年
昭和659年
昭和660年
昭和661年
昭和662年
昭和663年
昭和664年
昭和665年
昭和666年
昭和667年
昭和668年
昭和669年
昭和670年
昭和671年
昭和672年
昭和673年
昭和674年
昭和675年
昭和676年
昭和677年
昭和678年
昭和679年
昭和680年
昭和681年
昭和682年
昭和683年
昭和684年
昭和685年
昭和686年
昭和687年
昭和688年
昭和689年
昭和690年
昭和691年
昭和692年
昭和693年
昭和694年
昭和695年
昭和696年
昭和697年
昭和698年
昭和699年
昭和700年
昭和701年
昭和702年
昭和703年
昭和704年
昭和705年
昭和706年
昭和707年
昭和708年
昭和709年
昭和710年
昭和711年
昭和712年
昭和713年
昭和714年
昭和715年
昭和716年
昭和717年
昭和718年
昭和719年
昭和720年
昭和721年
昭和722年
昭和723年
昭和724年
昭和725年
昭和726年
昭和727年
昭和728年
昭和729年
昭和730年
昭和731年
昭和732年
昭和733年
昭和734年
昭和735年
昭和736年
昭和737年
昭和738年
昭和739年
昭和740年
昭和741年
昭和742年
昭和743年
昭和744年
昭和745年
昭和746年
昭和747年
昭和748年
昭和749年
昭和750年
昭和751年
昭和752年
昭和753年
昭和754年
昭和755年
昭和756年
昭和757年
昭和758年
昭和759年
昭和760年
昭和761年
昭和762年
昭和763年
昭和764年
昭和765年
昭和766年
昭和767年
昭和768年
昭和769年
昭和770年
昭和771年
昭和772年
昭和773年
昭和774年
昭和775年
昭和776年
昭和777年
昭和778年
昭和779年
昭和780年
昭和781年
昭和782年
昭和783年
昭和784年
昭和785年
昭和786年
昭和787年
昭和788年
昭和789年
昭和790年
昭和791年
昭和792年
昭和793年
昭和794年
昭和795年
昭和796年
昭和797年
昭和798年
昭和799年
昭和800年
昭和801年
昭和802年
昭和803年
昭和804年
昭和805年
昭和806年
昭和807年
昭和808年
昭和809年
昭和810年
昭和811年
昭和812年
昭和813年
昭和814年
昭和815年
昭和816年
昭和817年
昭和818年
昭和819年
昭和820年
昭和821年
昭和822年
昭和823年
昭和824年
昭和825年
昭和826年
昭和827年
昭和828年
昭和829年
昭和830年
昭和831年
昭和832年
昭和833年
昭和834年
昭和835年
昭和836年
昭和837年
昭和838年
昭和839年
昭和840年
昭和841年
昭和842年
昭和843年
昭和844年
昭和845年
昭和846年
昭和847年
昭和848年
昭和849年
昭和850年
昭和851年
昭和852年
昭和853年
昭和854年
昭和855年
昭和856年
昭和857年
昭和858年
昭和859年
昭和860年
昭和861年
昭和862年
昭和863年
昭和864年
昭和865年
昭和866年
昭和867年
昭和868年
昭和869年
昭和870年
昭和871年
昭和872年
昭和873年
昭和874年
昭和875年
昭和876年
昭和877年
昭和878年
昭和879年
昭和880年
昭和881年
昭和882年
昭和883年
昭和884年
昭和885年
昭和886年
昭和887年
昭和888年
昭和889年
昭和890年
昭和891年
昭和892年
昭和893年
昭和894年
昭和895年
昭和896年
昭和897年
昭和898年
昭和899年
昭和900年
昭和901年
昭和902年
昭和903年
昭和904年
昭和905年
昭和906年
昭和907年
昭和908年
昭和909年
昭和910年
昭和911年
昭和912年
昭和913年
昭和914年
昭和915年
昭和916年
昭和917年
昭和918年
昭和919年
昭和920年
昭和921年
昭和922年
昭和923年
昭和924年
昭和925年
昭和926年
昭和927年
昭和928年
昭和929年
昭和930年
昭和931年
昭和932年
昭和933年
昭和934年
昭和935年
昭和936年
昭和937年
昭和938年
昭和939年
昭和940年
昭和941年
昭和942年
昭和943年
昭和944年
昭和945年
昭和946年
昭和947年
昭和948年
昭和949年
昭和950年
昭和951年
昭和952年
昭和953年
昭和954年
昭和955年
昭和956年
昭和957年
昭和958年
昭和959年
昭和960年
昭和961年
昭和962年
昭和963年
昭和964年
昭和965年
昭和966年
昭和967年
昭和968年
昭和969年
昭和970年
昭和971年
昭和972年
昭和973年
昭和974年
昭和975年
昭和976年
昭和977年
昭和978年
昭和979年
昭和980年
昭和981年
昭和982年
昭和983年
昭和984年
昭和985年
昭和986年
昭和987年
昭和988年
昭和989年
昭和990年
昭和991年
昭和992年
昭和993年
昭和994年
昭和995年
昭和996年
昭和997年
昭和998年
昭和999年
昭和1000年
昭和1001年
昭和1002年
昭和1003年
昭和1004年
昭和1005年
昭和1006年
昭和1007年
昭和1008年
昭和1009年
昭和1010年
昭和1011年
昭和1012年
昭和1013年
昭和1014年
昭和1015年
昭和1016年
昭和1017年
昭和1018年
昭和1019年
昭和1020年
昭和1021年
昭和1022年
昭和1023年
昭和1024年
昭和1025年
昭和1026年
昭和1027年
昭和1028年
昭和1029年
昭和1030年
昭和1031年
昭和1032年
昭和1033年
昭和1034年
昭和1035年
昭和1036年
昭和1037年
昭和1038年
昭和1039年
昭和1040年
昭和1041年
昭和1042年
昭和1043年
昭和1044年
昭和1045年
昭和1046年
昭和1047年
昭和1048年
昭和1049年
昭和1050年
昭和1051年
昭和1052年
昭和1053年
昭和1054年
昭和1055年
昭和1056年
昭和1057年
昭和1058年
昭和1059年
昭和1060年
昭和1061年
昭和1062年
昭和1063年
昭和1064年
昭和1065年
昭和1066年
昭和1067年
昭和1068年
昭和1069年
昭和1070年
昭和1071年
昭和1072年
昭和1073年
昭和1074年
昭和1075年
昭和1076年
昭和1077年
昭和1078年
昭和1079年
昭和1080年
昭和1081年
昭和1082年
昭和1083年
昭和1084年
昭和1085年
昭和1086年
昭和1087年
昭和1088年
昭和1089年
昭和1090年
昭和1091年
昭和1092年
昭和1093年
昭和1094年
昭和1095年
昭和1096年
昭和1097年
昭和1098年
昭和1099年
昭和1100年
昭和1101年
昭和1102年
昭和1103年
昭和1104年
昭和1105年
昭和1106年
昭和1107年
昭和1108年
昭和1109年
昭和1110年
昭和1111年
昭和1112年
昭和1113年
昭和1114年
昭和1115年
昭和1116年
昭和1117年
昭和1118年
昭和1119年
昭和1120年
昭和1121年
昭和1122年
昭和1123年
昭和1124年
昭和1125年
昭和1126年
昭和1127年
昭和1128年
昭和1129年
昭和1130年
昭和1131年
昭和1132年
昭和1133年
昭和1134年
昭和1135年
昭和1136年
昭和1137年
昭和1138年
昭和1139年
昭和1140年
昭和1141年
昭和1142年
昭和1143年
昭和1144年
昭和1145年
昭和1146年
昭和1147年
昭和1148年
昭和1149年
昭和1150年
昭和1151年
昭和1152年
昭和1153年
昭和1154年
昭和1155年
昭和1156年
昭和1157年
昭和1158年
昭和1159年
昭和1160年
昭和1161年
昭和1162年
昭和1163年
昭和1164年
昭和1165年
昭和1166年
昭和1167年
昭和1168年
昭

■片貝花火の詳細

所 在 地 新潟県小千谷市片貝町
花 火 大会 名 称 浅原神社秋季例大祭奉納大煙火(片貝まつり)
開 催 日 每年 9月9日~10日
順 延 予 定 雨天でも打ち揚げ(台風等の悪天候は順延)
花火打ち揚げ予定数 15,000発(2日間)
四尺玉打ち揚げ 世界一の四尺玉、9日・10日両日とも打ち揚げ
観 覧 場 所 有料・桟敷席(予約)

■主な名産



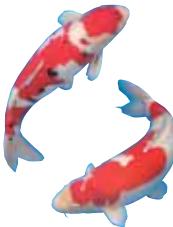
小千谷そば

海藻のふのりをつなぎに使いなめらかなのどごしと、シコシコと歯ごたえのある食感が特徴の小千谷のへぎそばです。



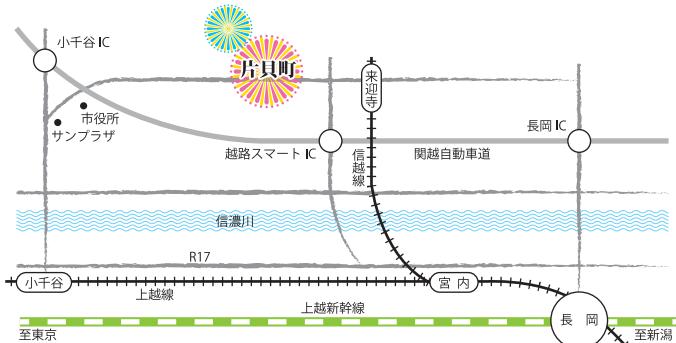
小千谷縮・紬

丹精込めて織り上げられた格調高い織物。麻や絹の風合いの良さが親しまれています。



錦鯉

錦鯉の里小千谷市の生産地では、雪国の清らかな水と伝統の技法で育てられた錦鯉が有名です。



■アクセス

JR小千谷駅から急行片貝経由長岡行バスで約20分
JR長岡駅から急行片貝経由小千谷行バスで約30分
関越高速道小千谷インターから片貝まで車で約10分
関越高速道長岡インターから片貝まで車で約20分
関越高速道長岡南越路スマートインターから片貝まで車で約10分

※長岡・越路方面からは午後になると片貝方面へは規制がかかり遅くなり、時間がかかります。
※お帰りは、長岡南越路スマートインターは、大渋滞が予想されますので、「長岡インター」のご利用をお願いします。

片貝町煙火協会

〒947-0101 新潟県小千谷市片貝町6532-5(浅原神社脇)片貝ふるさと会館内
TEL.0258-84-3900 FAX.0258-84-3902

■小千谷の主な施設



サンプラザ

お土産、特産、観光など、小千谷の事ならすべて揃う、観光の拠点。織物体験や食事も楽しめます。市街地にあり、広い駐車場があるので便利。



錦鯉の里

サンプラザに隣接し、自然石を配した見事な日本庭園で約40種の錦鯉を鑑賞できます。間近でえさを与えることもできます。



湯どころ ちちみの里

道の駅にある温泉、大浴場、露天風呂・岩盤浴などその他充実した設備です。館内には、名物小千谷そばをはじめ、メニュー豊富な食堂があります。



そなえ館・楽集館

地震の防災意識を学ぶそなえ館では、中越地震の揺れを体験できるコーナーもあります。同じ館内には、市民の文化活動拠点として利用される楽集館があります。



『おぢや～る』市民の家

宿泊、市民・地域間・都市交流の拠点として、また、水力発電のしくみ、山本山を通じた自然学習など、学習・交流観光拠点として活用していきます。